

が散在している。虱目魚はメダカ、鰻と共に此の水溜に進入し棲息している。之等は集団をなして移動行動しているが時期尚早のためか殆んどいないと言つてよい位少ない。採取魚の体長測定の結果は全長29耗、体長25耗、頭長8耗、腹径2耗、尾鰭長4耗、背鰭は吻端より尾鰭に向けて15耗の所から16耗の長さをもっており、約3耗で、体高は4耗、体高1に対し体長は約7の割合である。体高は約4耗平均であつたので親子期から抜け易く採取は困難であつた。

此の魚は当地では「マサバー」と呼ばれ入江中では大きいのを別種によつて魚獲する事もあるが、余り利用されていないようである。

文献によれば比島、南支那の沿岸約150~200米位の地先で孵化し5~6月頃より9月頃にかけて地によりつき、比島、南支、台湾等においては其の雄魚が採捕され養殖されている機構であるが、9月頃が魚種好期と言われている。今回は時期が早かつたためか予定通りの尾数の採取は出来なかつた。昭和3年から同5年7月にかけて台湾省高雄州の虱目魚魚獲試験に於いても僅かに成尾の採捕しか出来なかつたと報じている状態であるから、地元民の言う通り従往するならば時期を撰べば充分採取出来るものと思われる。

5月8日~9日、2日間採取に當つたが、時期尚早で採取数量は約50尾の僅少であつた。採取に當つては池間中校生の協力を得たが、取扱が粗雑のため、容器取付後約40%位死亡せしめたのは残念であつた。水深浅く且砂地のためか水温は高く約28~29℃であつたが、淡水と半々に用水をつくり比重1.01346、水温28~29.2℃で5月11日まで無傷水で1尾の死亡も見なかつた。輸送に當つても此の様に1尾の死亡もないところから充分輸送は可能であり、沖積に輸送し飼育する事は可能と思ふされる。

4. 久米島に於ける浅海資源調査 (2回)

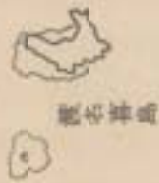
A. 貝類について

久米島に於ける有用貝類は新鮮サザエ(玉貝)、夜光貝、高麗貝、広瀬貝(棲息量順位)である。

イ) 夜光貝について

夜光貝は他貝と同様に久米島周辺リーフ一帯に産するが、特に御神崎リ

風36図 調査航跡及資源図



ープの中間頃から其先端を右廻り下する北側〔外洋側〕に産し、次いで巖干瀬を経て離小（リーフ）に至る之等リーフの同じく外洋面に産する。特に御神崎リーフの溝部に多産し操業を1ヶ年放置した時など列をなして母息すると謂われる。夜光貝の大きいものは殻重約3斤位（口径約6寸）で平均は1個当り1〜1.5斤位のものである。

操業水深は大体1〜7尋位迄で操業により採取される。7尋以上の水深においては、操業が次第に困難になる事と此の貝以外の貝類を採取するのが容易であり且つ収益も多いので大体7尋位までを操業している。操業時間は大体午前9時頃出漁して午後5時頃帰港する。船は動力付刺舟を使用し普通3人位乗組み、夜光貝の場合2.5斤位の水揚げである。漁場は御神崎の北側を本場所とし取り戻し次第に隣接干瀬を経て本島全域に及び漁期を終るものである。此の貝は組合納入の場合斤当り4.5円である。此の外直接仲買人売しも多いようである。

㉑ 高嶺貝及広嶺貝について

これらの貝は夜光貝の多くを産する御神崎には比較的少く、此の時の先鋒燈台の地或より右廻り下して巖干瀬を経て離小に至るリーフの外洋側に多く次いで島尻崎の先の各久下（トクジム）干瀬の周辺に多い。なお広嶺貝は高名浜地先からリーフ沿に北上してウティジ港間に産する。

㉒ 玉貝（朝鮮ナリエ）

玉貝は各リーフに産し特に巖干瀬に多いが廉価のため余り漁獲されないようである。

㉓ 母息順位と価格順位

母息並順位に記すと、玉貝、夜光貝、高嶺貝、広嶺貝の順で価格順位にすれば夜光貝、高嶺貝は同価格で広嶺貝が劣り、玉貝に至つては極めて劣る。斤当価格に記すと次の通りである。

価格順位	母息順位	品目	組合買上	組合出荷
1	2	夜光貝	45-	50-
2	3	高嶺貝	45-	50-
3	4	広嶺貝	15-	20-
4	1	玉貝	4-	5-

④ 貝類の年間水揚高

魚獲物は組合へ納入する外、直接仲買人渡しがあるため、確実な生産高は不明である。1957年度における組合取扱の分が12,000斤であるが仲買取扱分も同量と推定されると謂うから久米島としての年間水揚高の推定量は約25,000斤位と思考される。

⑤ 養殖保護について

貝類の産息地は豊富で、1ヶ年間放置すれば価格の高い夜光貝が浅所においても散的に採取され、従って労力の節減と相俟つて漁民の福利を希求する事は判然とした事である。従つて政府規則による漁獲規格統制による保護に加えて更に輪帯制採貝区域を自営組織として保護育成を怠るならば其の効果は益々著がるものと思われる。

従来これら貝類の養殖については例を見ないようだが、今年度から仲里村漁業協同組合により真泊港に30176.750坪の区劃漁業産を設定し夜光貝、高麗貝、広瀬貝、玉貝の増殖が実施されている。

(4) 方言

和名	方言
夜光貝	ヤッゲー
高麗貝	ソームン、ターマ、アカダマア
広瀬貝	モウモウグリア
玉貝	ソーンナ、マーンナグワア
黒味貝	ヒーゲー

(5) その他

奥端島南岸港先で瀬干洞内側にリュウキユウアコヤが産出すると言われるが海水混濁のため調査出来なかつた。黒味貝も産息するが漁獲されていない。

B 藻類について

(1) ックシアマノリについて

此のノリは方言でシソエと呼ばれ、久米島では下阿基部落東方奥端崎アカダランと呼称される地域と宇江城部落西方岸ミーフガー（洞穴）と呼ばれる地帯の二ヶ所に着生する。ミーフガー地域は着生量が少なく魚場価値がなく殆んど摘採されてないと云う。

アカダクシとは赤黒石と言う意か、黒色岩に幾分茶褐色を帯ぶ岩山が、 45° ～ 70° 位の傾斜で峻立し海中に突出している。此の時は冬期季節風の強く当る地域で潮汐の飛沫を受ける事が甚しい。ツクシアマノリは此の地帯の干潮線上3～5寸位の高さから5尺位迄の範囲に着生し、潮汐の飛沫を受けて生長する。着生は旧暦10月頃から始まり、旧暦12月頃から採取され旧暦1～2月頃迄に採取を終る。採取には帆舟をもつて現場に至り岩上に上り、両手でノリを岩面に押しつつこすって抜き取る。ノリは岩面一面に合も一枚のように着うて着生し此のため採取に当つては摘採ではなく上述のようにして採られている。

採取時期のノリは褐色して商品価値が劣るため其の殆どが自家消費として充てられる。アカダクシ一帯は採取期は波浪が激しいため月間の採取日は2～3日位であり、1日に1人で約4～5升位である。1升の量は充分に乾燥させた時の乾燥の量である。販売価格は充分に乾燥させ、乾燥1升で40～50円位で最高価格でも50円位が平均である。採取期になると男女随つて採取されるが、これは男1日の普通賃金が120円位であるため、ノリ採取では1日200円以上に出る収入となるからである。アカダクシに於ける1期間中の生産量は乾燥量で1石2～3斗である。

(四) 海人草について

海人草は久米島でも本島同様方言ではナチローラ又はナチヤーラと呼ばれている。海人草の養生場所はウナイグ港より島尻部落に至る間の地先一帯及び久下干瀬の北側一帯が最も多く、雨の崎より儀間部落に至る間の地先で浮子瀬の東部一帯と中干瀬の外洋側一帯、西干瀬の南端の内側一帯、更に御神崎南側一帯が前者に次ぐ。中干瀬外側の養生場所は水深が深いため採取する者がなく草丈は長いと言われる。水深は7～10尋位の深部で漁場として利用されていない。

島尻側一帯における海人草は現在(6月13日調査)養長が多量に生じている。

久米島における年間生産量は、漁業協同組合取扱い分が約1,000斤であるが仲買人直接渡等其他を合すれば約3～4,000斤位の水準と推定する。

海人草の養殖については戦前、戦後真泊港や鏡目地先等に於いて幾度か実施されて来たが施行者の管理の不十分と漁民の無規制な乱獲によつて何れも成功してないと言われる。

イ) ヒトエダサについて

ヒトエダサを方言でアサ又はアサダワアと呼ぶ。このため、アサと混同し易く地元住民でも慣例呼称から誤認しているものが多いようであるから注意する必要があると思われる。ヒトエダサは久米島地先に着生し特に北部地先のものは砂が少く其の質も良好だと言われている。これはリーフや岩盤、岩石等に着生するため砂が少く、且つ久米島は山林田畑に富み水豊富なため有機物の流入が多い思惑に起因するものと思われる。換長期には那覇からの引合も多く、個々の消費の外那覇へ個人で送っている様様である。

ロ) 其 他

ヒジャは真謝部落地先に産し戦前は食料として幾分自家消費する外日本本土に移出していたが戦後は全く顧りみられず其の存在すら忘れられている状態である。

ツノマタは島尻湾内の岩礁上に点散産すると云われるが量少きためか漁民の関心は甚だ薄く、其存在は充分に知られていない。

テナダサは御神崎の先端深部と飛離岩周辺にある模様。かつて飛離岩周辺における深部一本釣採集の際20尋位の深底より釣籠に觸れて採取された事実があると云う。

C 地 形

① 御神崎と島尻湾

御神崎は真泊地先より突し東方に伸びる一大リーフである。その先端は右鉅南下して進干瀬、陸小、往久下湖に至り大環礁を造る。御神崎北側は急崖で夜光貝が多く久米島唯一の夜光貝魚場となっている。御神崎南側環礁内は粗砂、小環の混同で所々にリーフがあり、海人草、其他の藻類がある。島尻湾内鏡目地先一帯は珊瑚礁質岩盤でウニ、ナマコが産出している。奥武島、泊瀬は小環と砂で所々に産出珊瑚が多い。

② 往久下干瀬

地開岩を田焼する往久下干瀬一帯は黒色砂が多い。